



※定住外国人子ども奨学金ニュースレターWeb版は個人情報などの都合上、内容を一部変更しています。

「第 8 期奨学生の面接を終えて」

「安定して学業に励みたい。」という子ども達の切実な希望を受けて、「2015 年度定住外国人子ども奨学金」の面接を実施しました。20 名の応募者の中から書類選考で選ばれた 9 名の子ども達との面接です。

H 委員長、T 先生と私の 3 人が面接を担当しました。この 4 月に高校に進学した候補者はいずれもさわやかで明るい生徒達でした。いずれも甲乙つけがたい将来性のある子ども達だ、という思いの中、3 名という限られた枠内で、経済状況や面接結果を踏まえながら時間をかけて慎重に選考を行いました。

5 カ国の出身ルーツを持ち日本で育った期間も異なる 9 名の子ども達との面談は、各 15 分で、とても十分なものではありません。しかし、その中で、樋口委員長をはじめ選考委員は熱心に面接と討議を行いました。彼らの持つ夢や学業への思い、ボランティアへの取り組みなどには、大人である我々が思わず感銘を受ける素晴らしい意見もありました。

この兵庫・神戸は定住外国人も多く、全国でも多文化共生への取り組みが熱心に行われている地域のひとつです。多くの多様なルーツや文化を持った人々が居住し、また行き来することで地域の活力が生み出されます。その意味で、日本のことも自分のルーツの文化も理解し伝えることができる人材の存在はとても重要なのです。この奨学金を受けた子ども達がそういう多様な文化の架け橋や推進者になることを期待しています。

この奨学金制度を支えるために、また定住外国人の方々や安定して生活ができるように、多くの人々や定住外国人支援センターの方々や熱心に取り組んでいます。心より敬意を表します。今回、面接という貴重な機会を得て、外国にルーツを持つ子ども達の夢や希望を聞くことができさわやかな気持ちも持った一方、希望が適えられなかった子ども達への思いや多文化共生社会に向けた課題の存在も感じました。次世代を支える彼らが未来に向けて伸び伸びと地域の宝として育ってほしいと心から願っています。

(実行委員 O.T.)

実行委員長 退任のご挨拶

この度、定住外国人子ども奨学金を立ち上げてから約7年間務めました実行委員長の任を退くことになりました。これまでご支援くださった皆さまに心より御礼申し上げます。

2008年春から第一期の奨学生を迎えてスタートした本奨学金は、思えば大きな基金も無ければ同様の先行事例も無く、一度始めたら「引込み」のつかない“無いことづくし”の暗中模索の事業だったはずなのですが、そのことを忘れさせるくらい、本当に多くの方の助けに背中を押されて進んできた7年間でした。これまで奨学生15名全員が高校を無事に卒業していき、8年目を迎えていることは奇跡と言えるかもしれません。一方で、そんな「ひ弱な」事業がこれまで続いできたのは、外国にルーツをもつ子どもたちを「教育への投資」によって支えていくことの大切さを、多くの方が支持してくださったからなのだと実感します。それが、国籍、民族、性別、世代を超えて共有されるものであることは、動いてみなければ見えなかったかけがえのない景色でした。

一方で、私たちが奨学金を通じて外国にルーツをもつ子どもたちに受けさせたいと願う「日本の教育」は、果たしてこれらの子どもたちが自分の背景に誇りを持ち、それを資本として生かせるものになっているのか、「外国人／日本人」の多様化と境界がゆらいでいる現実と、事業名の「外国人」という表現のズレ、これら子どもたちの教育支援はそもそも市民の寄付が賄うべきものなのか…そういう諸々のジレンマを抱えていることも、やはり覚えておきたいと思えます。

人権の課題を積み残したまま、競争と自己責任を是とする排除型の社会の渦に放り込まれたのは、これら外国にルーツをもつ子どもたちだけではなく、日本社会に暮らす私たちすべての人だということを痛感しています。これからも「当事者」の一人として、また実行委員の一人として本事業を応援し、これら子どもたちを引き続き支えて参ります。今後とも、定住外国人子ども奨学金と奨学生たちに、変わらぬご支援をよろしく御願いたします。(N.S.)

実行委員長 就任のご挨拶

このたび、N前委員長の後を受けて、定住外国人子ども奨学金実行委員会の実行委員長に着任しましたHです。私はふだん、大学で日本文学を研究教育しており、教育学の専門的知識を十分に持つ者ではありません。とはいえ、この15年間、国際結婚の家庭で外国にルーツを持つ子供を育ててきた経験を持っており、そのような立場から日本の国民教育と外国人児童の関係について関心を持ってきました。また、N委員長のもとで副委員長を努めてきた経験もあり、このたび、実行委員長を引き継ぐことを決意しました。至らぬ点も多いことと思いますが、どうかよろしくお願い申し上げます。

外国にルーツを持つ子供たちに公正な教育の機会を与えられる社会をつくることは、子供たち自身やその家庭にとって重要な問題である以上に、日本社会にとって重要な問題だと思います。グローバル経済の中で生活格差が広がりつつある現在、不利な立場に置かれている子どもたちをめぐる状況はますます厳しくなる傾向があります。当奨学金実行委員会の能力は限られたものですが、所与の条件のもとで、次世代の子どもたちにとって必要であることを少しでも多く実現していきたいと考えております。引き続き、皆さまのご協力・ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。(H.D.)

奨学生からのメッセージ

第 8 期生の新奨学生には自己紹介を、第 5 期生である卒業生には後輩に向けたメッセージなどを、他は自分でテーマを決めて作文を書いてもらいました。

Kさん (8 期生)

1.自己紹介

こんにちは。在日韓国人 4 世の K です。生まれた時から日本に住んでいて、韓国語はあまり得意ではありません。小 1 から小 3 まで日本の学校に通いましたが、自分のルーツを知るため、小 3 の途中から朝鮮学校に通いました。そこで、ルーツ語や文化、歴史などを学ぶことができました。中学校は家庭の事情で日本の学校に通いましたが、吹奏楽部に入り、とても楽しく過ごすことができました。高校でも友達を作り、頑張りながらも楽しく過ごしていきたいです。

2.高校に進学してどのようなことがしたいですか？

勉強では、苦手な数学と理科を少しでも克服していきたいです。部活は吹奏楽部に入り、引き続き頑張っって両立していきたいです。高校では全て難しくなりますが、わからない所は先生に聞いたり、友達に聞いたりして 3 年間頑張りたいと思います。

3.将来の夢

今、目指している夢は、教師になることです。
中学 2 年生の時に英語に興味を持ち、頑張っって勉強をしています。
憧れの先生に近づけるように努力していきます。そして、大学に入って留学をし、本格的な英語を学んでいきたいと思います。

Bさん (8 期生)

1.自己紹介

ルーツを持つ国はベトナムです。日本に来た時期は 2 歳の頃です。
家族は、僕はお父さんとお母さんと妹がいます。土曜日や日曜日はおばあちゃんも一緒にごはんを食べたりしています。両親と僕はベトナム生まれですが、妹は日本生まれです。両親は日本語の読み書きはできませんが、話すことはできます。
これまでの生活については、両親がすごく仕事をがんばってくれたので、高校に入ることができました。僕は日本よりの考え方で、両親はベトナムよりの考え方なので、意見がすれ違うことがあります。一度、中学三年生の夏休みの時に大げんかをしてしまいました。でも、おかげでお互いをより深く理解し合うことができました。
中学校では吹奏楽部に入り、チューバを吹いていました。コンクールで賞をとることはできなかったのですが、様々な行事に参加をして、長田を盛り上げてきました。生徒会執行部では文化委員長をしていました。本についてのアンケートを行ったりして、学校を支えました。僕もいろんな人に支えられて成長することができました。

興味関心は日本の文化に興味があります。小学校の頃、ホアマイ教室というものがあって、ベトナム語やベトナム文化について学びました。中学一年生の頃に、ボランティア活動をして、日本の文化について触れる機会がありました。それから、日本の文化についてすこしずつ学ぼうと考えています。日本の職人さんたちが、作る物のことや技術について学びたいです。

2.高校に進学してどのようなことがしたいですか？

勉強はテストで 95 点以上が目標です。特に高校では国語は現代文 (漢文) と古文に分かれるので 3 年間毎日こつこつしてマスターしたいです。理科や数学や英語が好きなので、より高いレベルを目指

します。選択科目は音楽を選びました。歌を歌うことは好きですし、音楽について興味があるので、みんなでいい授業にしていこうと思っています。部活動は茶道部に入る予定です。ボランティア活動は週に 1 回ある土曜学校にしています。外国の子どもたちに勉強を教えています。高校生活での希望？は、テストでの高得点とたくさんの方との交流をしたいです。

3.将来の夢

将来、医者か学者（病気についてか宇宙について）になりたいです。そのための目標として、兵庫県で 5 位以内になりたいです。

D さん (8 期生)

1.自己紹介

父がコロンビア人で、母が日本人です。小学校 6 年生のときまで、コロンビアに住んでいて、日本に来た時は、まったく日本語がわかりませんでした。最初はとても大変で、日本の文化も知らなかったし、学校の授業の内容も理解できなかったし、友だちとすら会話ができませんでした。毎日泣いていました。

でも学校の先生や友達、家族、日本語学校の先生たちが、いつも応援をしてくれたので、私もがんばろうと思いました。

毎日一生懸命日本語の勉強をして、学んだことをすぐに会話でつかうようにしました。日本語がおかしくて、人に注意されたときは、いやだなと思わず、それをしっかり受け止め、すぐに直すようにしました。毎日の努力と、周りの人々の応援のおかげで第一希望の高校に合格することができました。いろいろ大変だったけど、努力は裏切らないと改めて思いました。

2.高校に進学してどのようなことがしたいですか？

勉強の面では、授業の予習、復習をして、小テスト、提出物などをしっかりやり、毎日 30 分でも勉強したいと考えています。部活動ではカヌー部で一生懸命練習し、つらくても、がんばりたいと思います。そして、県大会も目指します。

友達もたくさんつくって、日本人だけでなく、世界中の友達もつくりたいです。3年間、きっと忙しいと思うけど、充実した楽しい高校生活を送りたいです。

3.将来の夢

将来は、母語のスペイン語、日本語とこれから学んでいく英語を生かした仕事に就きたいです。また、私のような日本に住む外国人の役に立ちたいので、ホテルスタッフかキャビンアテンダントになりたいです。また 2020 年に開催される東京オリンピックでは、ボランティア通訳をして、日本と世界の懸け橋になりたいです。

一生懸命、仕事をして、お金をためて、いつかは世界一周をしたいです。いつも笑顔で明るく、やる時はしっかりやる、社会貢献できる、そんな大人になりたいです。

I さん (7 期生)

新しいスタート

四月になり、私は高校一年生としての生活を終えて、二年生へ進級することになりました。

新学期を迎える楽しみと共に不安を感じています。

まず、新しくクラス変えがあり、どんな人と友達になれるのかが楽しみであり、また、部活の後輩が入部してくることも、私にとって刺激であり楽しみです。

そして、秋には期待している海外研修があり、訪問できる選択肢はイギリス、アメリカ、カナダと三ヶ国有りますが、私は行き先としてイギリスを希望しています。

理由としては、古い歴史を持つイギリスに行って、その歴史に触れてみたいと思っています。

私の不安は、日本語の理解力と読解力不足です。小学校高学年、中学校の計五年間の中国での生活が長かった為、日本語表現及び学校での国語、古典が少し苦手です。その為、国語の理解力や読解力が不足しており、全体の成績に影響を大きく及ぼしています。

そして、今は日本語の小説や新聞を読むようにして、読解力を向上させる努力していますが、それ以外になにか良い方法が無いかと考えています。

しかしながら、中国での生活のお陰で中国語検定の最上級に合格する事ができ、また、学校での漢文の勉強に大いに役立っています。

二ヶ月程前の全国統一試験で特に、英語と数学の成績も良く、そして私自身も化学と物理が好きです。先生からも理数系を目指したらとの薦めも有ります。また、なにか人の役に立つ事が出来ると思い、医科系の大学への進学を目指したいと思います。

今現在、母が一人で生活を支えてくれており、母の負担も考えて、国公立大学の医学部を目指したいと思っています。

しかし、バスケットボール部に所属しており、勉強と部活の両立がとても難しく、また、休みの日も少なく、練習後はとても疲れている為、勉強に集中するのは大変ですが、部活も頑張って継続したいので、努力していきたいと思います。

私自身も、強い信念と目的達成の為の意識を持って二年生に進級したいと思います。

Sさん (7期生)

四年ぶりに中国・北京へ

私は今年の一月に家族の事情により、一時帰国しました。最初はもちろん四年ぶりの帰国なのでとても楽しみでした。でも、家庭の事情ということもあって不安もありました。高校からの大量の冬休みの課題も一部は帰国前に終わらせていたけど、結局私の手荷物は、八割が高校の課題になってしまいました。なので、「せっかくの帰国も課題をすることに費やしておわっちゃうのかな。」と悲しく思う気持ちもありました。

中国に着いたのは、夜でした。親戚の方々とレストランで夜ご飯を食べました。北京ダックに川魚のスープ等、とても美味しかったです。

三日目には、親戚の結婚披露宴に参加しました。花嫁はとても綺麗で美しかったです。生まれて初めての披露宴はとても輝いていて素敵な場所でした。出された食事美味しいものばかりでした。

四日目からは少しでも早く課題を終わらせるため、朝六時に起きて、夜は深夜を過ぎるまで無休で課題に取り組みました。母の妹の家で寝泊まりしました。私は三歳から四歳の一年間を母の妹の家で過ごしたせいか、何故か落ち着くことができ、勉強することにあまりストレスを感じませんでした。私のいとこのうちの1人、理系の人だったのでその人に物理を教えてもらいました。課題で解けない問題があると一緒に考えてくれました。お蔭で冬休み明けの物理の課題考査では、とても良い結果を出し、物事を理解し、問題を解く楽しさと物事をやりきって良い結果を出す達成感を感じることが出来ました。おまけに、物理の先生からお褒めの言葉もいただきました。本当に嬉しかったです。

六日目に私は冒険心で母の妹の書斎にこっそり入りました。沢山の本を眺めていると、見覚えのある背表紙が見えました。半信半疑で手にとってみると、それは私が四年前まで書き続けていた日記帳でした。懐かしい気持ちでいっぱいになりました。この日の夜は、結婚した親戚の家で夕食を食べました。私はこの日から体調を崩してしまいました。母の妹に「急に1日中無休で勉強したのが原因じゃないの。」と冗談を言われました。

七日目は母の妹とその旦那さんの誕生日でした。レストランで夕食とケーキを食べました。

中国にいる間、大量の課題に体調不良、食べ過ぎのうえに便秘に悩まされて大変だったけど、とても楽しかったです。

Jさん (7 期生)**職業差別について**

私が小学校 2 年生の時、「将来何になりたいか」と、きかれるとみんなたいてい「医者になりたい」とか、「先生になりたい」あるいは専門的な仕事を答えていました。私はなぜ誰も農家やウェ이터になりたい人がいないのか不思議でした。

私はフィリピンで生まれ育ちました。フィリピンでは奴隷制度の長い歴史があります。十六世紀前半から十九世紀後半にわたって、スペインの植民地として支配されました。その結果、職業によって身分が決まる差別が始まりました。スペイン人がフィリピンに征服活動を行いました。その活動の一つは、奴隷として、先住民を、女性と子供たちを含めて働かせました。そういった人々はモノのように扱われ過酷な労働を押し付けられ、スペイン語を教えられることもなく、教育を受ける機会さえ奪われました。また、スペイン人の前では先住民が使っていた言語も禁止されました。スペインの支配が一八九八年にアメリカ軍によって、終わりましたが、国土は戦場となり、農場が荒廃しました。その後、フィリピンの経済を支えていた農業従事者たちが苦勞して、農業を復興しましたが、そこへ投資をするためにやってきたアメリカの大企業らが利益の大部分を収奪しました。このようにして農家はいつまでも貧しく、地位が低いまま定着し、今でも身分が差別されます。

このような差別が私の母国ではまだいまでも存在しています。ほとんどの人はそれをたいした問題とっていないかも知れません。しかし、この問題はどれだけ私達に関係しているかを知らせたいのです。なぜなら、人は誰でも平等で一人一人同じように存在の価値が同じく大切だからです。決して職業によって差別されてはいけないと思います。どんな小さなことでも変化に繋がります。まずは自分達から変わり始めることです。私達自身がこの問題の重要性も確信していなければこの問題を重視していない他の人を説得することは出来ません。

この問題の解決に向けて、教育に関する活動などが重要だと思います。なぜなら、将来を担う世代がこの問題にどのように向き合うかに大きな影響を与えることが確かだからです。教育によって、この問題をより多くの人に知らせる方法がたくさんあります。例えば、差別を実際に経験した人から直接話を聞くことです。実際にその仕事を体験することでも理解に役立ちます。そのことによって、私達は肉体労働の厳しさや重要性を認識することができると思います。

何かを変えることはいつでも難しいです。でも、変化をもたらすものをいつまで待っても訪れる訳もありません。最初のペンギンのように飛び込みましょう。

誰でも変えることができる、誰でも差別を止めることができる。

「あなたは どうする。」

Kさん (6 期生)**プラスマイナスゼロ**

「日本とメキシコどちらが好きなの。」

このような究極の選択をせまられたことのある人は多くいるだろう。食べ物、スポーツその質問はどの分野に関しても作りだせるからかもしれない。私は何にでも長所と短所があると思う。そのどちらに重点を置くかが、「好き」「嫌い」の違いだろう。ところで先ほどの質問に対しての私の答えは、「どちらも好き」である。「どちらのが」と聞かれているのに、「どちらも」と答えるのは、間違っているのかもしれない。しかし、こうとしか答えられないのだ。他の人から見ると、答えは「日本」かもしれない。しかし、両国の長所と短所を知っているからこそ私は、「どちらとも」という答えになるのだ。

私の思う日本の長所は、「きれい・安全・便利」。特にこの三つだと思う。「小学生になったら一人で登校」日本では普通だが、日本以外の国では考えられない。日本が安全である一番の証だと思う。メ

キシコでは、道を歩くとき犬のフンに気を付けなければいけない。だが、日本では歩きスマホをしても、臭い靴を一日中はく必要はない。日本人は、時間厳守だとよく言われるが、それを成立させているのは、「時刻表」や「渋滞情報」だ。これらは、とても便利だ。これがあることによって時間を有効に使える。

では逆に、私の思う日本の短所は、「安全過ぎる。同じが好き」ということだ。「安全過ぎって、さっきは長所に入ってたのに」と思うかもしれないが、何事にも限度がある。安全すぎる場所にいると人は、危機感をなくしてしまう。自分を自分で守れなくなる。そしてまた、日本が安全過ぎるのか、他国がそうでなさ過ぎるのか、近年若い人が「危ないから」という理由で海外へ行く数が減っている。次に同じが好きだ。私のような外国にルーツのある人なら一度は通った道だろう。なぜ「みんな」が好きでそれが何なのかわからないが、その中に入れないことで、心が黒色インクの瓶に沈められたような気分になることはよく分かっている。

次にメキシコに対して、私の思う長所は、「資源が多いこと・時間がゆっくり流れること・明るいこと」この三つだ。資源が多いと言っても日本と比べてのことだが。日本に住み始めて一番大きく感じた違いだ。フルーツを買うとき、今でも財布の口を開くときためらいが生まれる。正直に言うと「高い。けど甘くない。甘いのはそれよりもっと高い。」だ。この心の声から察してもらえるように、メキシコでフルーツは安い。我が家のテーブルの上のフルーツかごが空になることはないくらいフルーツをよく買っていた。時間についてだが、一時間六十分、一日二十四時間というのは、世界共通だ。ここでは、物理的ではなく精神的な意味での「ゆっくり」だ。そのためか分からないが、私の母は同い年の人より若く見える・・・と思う。時間をそう感じるのは、流行があまり変化しないからだと思う。一年に四回も変わる日本と比べ、早くて一年に一回しか変わらない。明るいというイメージは多くの人が持っているだろう。行事の度によく分かる。特に死者の日の祭壇は、クリスマスのものよりカラフルで、世界中でもトップクラスの明るさだ。では、短所はどうか。「治安が悪い・友達より家族」の二つだと思う。治安が悪いことに対して、私は、ここ五・六年考えているが良い対策が出てこない。可能な限り早く見つけ出したい。日本人にある「友達との絆」とか「青春」というものは、メキシコにはない。「家族の絆」はとてつもなく強いが、同級生と書いて「敵」と読むので友達はなかなか作らない。ちなみに、私の父は、親友が四人いるが友達はいない。つまり、家族というイソギンチャクを大事にしそこに隠れることで世間をいう大海で生き抜くカクレクマノミなのかもしれない。

私は今、大まかに長所と短所を書いたが、私は両方を含めてこそ日本やメキシコなのだと思う。だから私は、短所を見て見ぬふりすることも短所だけ見ることはしない。これは国にだけいえることではない。何に対しても長所、短所を持っているからこそ魅力的なものになるのだと思う。

Nさん (6 期生)

人生にとって一番大切な年

期末テストが終わって、春休みに入ろうとしています。20 日には終業式には終業式が行われて、そして 4 月に入ると、いよいよ高校三年生になります。春休みは、ほかの休みと違って、ゼミや補習などがなかったです。しかし、やはり三年生になろうとしているので、今年は学習会を二回やります。

三年生になると、今までのまとめの時間がなくなり、放課後の選択授業を受けることができなくなります。さらに、理系科目は週 19 単位もあります。いろいろと難しいことがあるかもしれませんが、一つずつ克服していきたいです。

人は夢や目標を持って、そのために努力すると思います。しかし、中には、夢を持っているけれども、なんとかなる、明日でもできるといった考えを持っている人もいます。誰でも怠け者だと思いません。ゆえに、技術が発展して、人々はより便利に暮らしていこうとします。ところで、人の人生においては、努力をせずに、楽に過ごそうとすれば、一生なんの価値もなく、なくなってしまう。そんな人生を送らないように、こつこつと努力したいです。

この一年間で、どんなに苦勞しても、疲れていても、乗り越える根性があれば、一年後には、必ず笑って、新しい人生のスタートラインから出発できると思います。

二月の月末に三年生の卒業式に参加しました。「蛍のひかり」を歌いました。一年後に自分がそこに座っていると思うと、とても不思議な気持ちでした。高校生活も終わりに近づいています。最後の一年間を大切に、いい思い出をたくさん作って、卒業式の日には、「N高校に来てよかった」、「高校の三年間たのしかった」と胸を張って言いたいです。

Yさん (6期生)

ゲーグルアース

僕の学校では、三年生の卒業後にクラス行事最後のコーラス大会があり、高校入試や代休の関係で、六日間の休み期間があります。

長期の休みということもあって休み明けに課題テストがあり、もうすぐ部活を引退して受験が本格的に始まるので、コツコツと勉強しています。

そして、この期間にできた楽しみの一つがゲーグルアースで世界中を旅することです。ゲーグルアースに出会えたのは、偶然で、地理の資料集で南米をピックアップして調べていたときに、ナスカの地上絵についての説明文で、このアプリで上空から確認してみようとあったので、インストールしたのがきっかけでした。

残念ながら、拡大して探しても、ハチドリやクモ、サルのような形を見つけることができず、がっかりしました。しかし、川によって形成された谷や壮大な山脈の形を上空から見下ろす感覚は、空中散歩をしているかのようで、とても感動しました。

ナスカの地上絵の次は、日本で自分の家や市内の町並を観察し、通学時の電車の通路を学校まで辿り着きました。学校のテニスコートには三十人程度が練習していて、つい最近半分の解体作業の終わった仮校舎はまだ建ったままでした。

次に、母に声をかけて、ペルーの実家を探しました。上空から見ても分かりづらかったので、地面を歩く機能を使って、まちの中心部から家へ向かって歩き出しました。実際に歩いているかのような気分を味わい、今はもう忘れかけている故郷を懐かしく思いました。小さい頃に遊んだ公園、その前の販売店、家族全員で住んでいた家は懐かしくも新鮮でした。他にも、兄と一緒に通っていた小中一貫校をみていて、気が付くと深夜遅くなっていて、いかにのめり込んでいたかがよく分かりました。

ゲーグルアースに出会って感じたことは三つあります。一つ目は、故郷についてもっと知りたいということです。二つ目は、地球全体をそこまで正確に観測できる技術の高さが象徴するように、地球はスマートフォンで縮小や拡大をするかのごとく、狭く感じられるようになるということです。三つ目は、アプリを開くと同時に表示される宇宙空間にぽつんと浮かぶ地球を見た時に、国を意識せずにみんなここで暮らしているのかと再認識したことです。

そして一番強く思ったことは、このアプリで訪れた場所をいつか訪れて、自分の目でどんな場所かを確かめたいと思ったことです。今なら、半生以上訪れなかった地球の裏側の故郷もそう遠くないと感じます。

Gさん (5期生)

1. 高校を卒業して

高校、初めの時はまず、友達作りと学校に少しでも慣れるためにたくさんの先生方に学んだ学校生活でした。勉強面でついていくのに必死でした。でも、やっぱり難しくて成績は上がらず、でした。初めての事がたくさんありました。初めての交流会、初めての灘チャレンジ、初めてのコンサート、いろいろ体験させてもらい、いろいろ学びました。

一番印象に残ったのは、やっぱり最初の交流会が印象に残りました。母と来て、とても緊張して、いろんな方々と話し合ったのを覚えています。それで、これからいろいろな事を学ぶって思うとワクワクがとまらなかった事も覚えています。

高校生活では、私はとても周りに恵まれていました。心から一番話せる友人もでき、自分の事をずっと気にかけてくれる先生もいて、支えてくれる家族がいてとても幸せだと思いました。奨学生になれなかったら、ここで知り合った多国籍の友達や後輩や先輩にも出会えなかったと思います。

2. 今後の進路について

私は、看護師になるために、医療の専門学校に進みました。昔とちがって、もともと難しくなるので、もっと人一倍よりがんばり、支えてくれているみんなの期待をうらぎらないようにがんばっていきたいと思います。

寮生活なのでみんなで助け合い、自炊していききたいと思います。

3. 奨学金の使い道について

学費に使わせていただきました。母が全て管理していました。

4. 後輩へのメッセージ

高校生活で後悔しないように勉強と生活を送ってほしいです。私は高校生活で後悔したことがたくさんあったので、こんなふうになってほしくないの、これからチャリティーコンサートやボランティアもたくさん参加しながら、ちゃんとした高校生活を送ってほしいと思います。

Sさん (5期生)

1. 高校を卒業して

2015年3月3日、兵庫県立K高校を卒業した。三年間を振り返れば、たったこの一枚の紙では書ききれないくらい皆に語りたことがある。

僕の国語の恩師について、語りたと思います。I先生の授業はいつもおもしろく、充実している。去年の6月から毎週一回、放課後などに、I先生が国語の補習クラスを開いた。僕は、思わず申し込んだ。が、センター試験レベルの評論文を30分以内に読み切ることさえできなかった。その時の僕にとって、I先生のペースが速すぎた。「やっぱ無理かあ・・・国語は諦めるしかないなあ・・・」としばらく、悩んでいた。悩んだ結果、僕はI先生に打ち明けた。I先生はにっこり笑って、こう言った。「先生と一緒に勉強しましょうか?」。そして、先生に問題をもらい、驚いたまま、職員室から出た。その日から、僕は常に朝早く起き、学校に行き、I先生に教えていただいた。たまに土日にも、そして、夏休みにも学校に通っていた。僕はいつも事前に文章を読み、問題を解いてから先生に教えていただくが、毎回、僕は毎回、先生に文章を声に出して読まされた。こういうふう、半年くらい頑張ってきた結果、センターで118点をとった。I先生には、本当に感謝の気持ちがいっぱい、いっぱい、書き表すことができない。

2. 今後の進路について

僕はH大学の経済学部に進学します。そして、アルバイト先も決まっています、Aドラッグという薬局です。大学はサークルに入って、友達を沢山作り、そして、勉強は、就職するときに困らないようにしっかり頑張りたいです。中国では、日本の化粧品などがとても人気があります。僕はそれらについて、知りたく、そして、将来の役にも立つだろう、と思って、Aドラッグの採用面接を受けてみました。一次の面接試験が通った後に、レジのテストがあって、僕は驚きました。社会に出ても、勉強は欠かせないものだと実感しました。幸いなことに、僕は合格できました。明後日が初出勤日なので、良い経験になるように、一生懸命働きます。

3. 奨学金の使い道について

奨学金は基本的に、僕の高校の海外研修の費用に当てました。そして、残った分は全て家計に当てました。

4. 後輩へのメッセージ

最後まで、絶対に諦めるな！

1 月 18 日、僕はセンター試験会場から出て、一人で歩きながら、「もう H 大は無理かあ・・・」と独り言を言っていた。実は、センター試験の、数学で大失敗をしてしまった。家に帰って、自己採点をしてみたら、得点は目標の点数の半分もなかった。ショックを受けた僕は、これから、絶対数学なんか勉強したくないと、バカみたいに思っていた。一週間経ち、H 大の判定は予想通り“E”だった。担任の先生に、逆転の可能性はまだあるよと言われたにもかかわらず、数学の教科書を開く勇気が湧いてこない。それから、もう一週間経った。毎日、家にこもって、ドラマなどを見て、ゲームをして、ずっと憧れていた生活ではあるが、むなしさをますます感じた。“やっぱ勉強したい、それに、絶対に後悔なんかしたくない。”と思った。その前には全然やる気がなく、H 大の出願さえ出さなかった。出願の締め切り日の一日前にぎりぎり出願した。そして、センター前の生活リズムに戻し、毎日自習室に通った。そして、前期試験を受けて、合格した。日々、苦しんでいた僕がいたおかげで、今の僕がいる。結果はどうでもよく、後悔だけはしたくないと思っただけなのだ。

Nさん (5 期生)

1. 高校を卒業して

日本の学校に通いはじめてから何度もフィリピンに帰りたい気持ちになりました。私みたいな外国で生まれ育って日本語を話せない人には日本で住むことは難しかったです。何度も自分のことをだれも理解してくれないと思ったことがありました。日本語ができないため、コミュニケーションはどうしても難しかったです。だけど、今はフィリピンに帰らなかったことはよかったですと思います。もちろんその国にいる友達などとは会いたいです。日本で高校を卒業してよかったと思います。卒業してやっとまわりの人たちがどれだけ自分のために頑張ってくれたかが、わかりました。ずっとささえてくれた人たちがいなかったら、私は今ここにいないだろうと思います。

奨学金や学校の先生たちは時にはきびしいことを言ってくれました。その時はいやな気持ちにはなりましたが、もしその言葉を耳にしなかったら、私は成長していなかったと思います。みんな卒業した私に「おめでとう」と言ってくれますが、私が卒業したことは、自分のものだけではなく、ずっとそばにいてくれた人のおかげです。私に「おめでとう」というよりも、私がみんなに「ありがとうございました」を伝えたいです。

2. 今後の進路について

K 大学の G 学部 E 学科に合格しました。この大学では、英語のスキルをつかって日本社会と世界のいろんな国で役に立つ存在になるようにがんばります。

大学通いながら、明石でアルバイトとして子供たちに英語を教えています。

3. 奨学金の使い道について

奨学金には、ほんとに大変お世話になりました。学校につかう物、シャーペンやノートなどの小さな物から TOEIC や英検を受ける時にも使いました。親にできるだけ迷惑をかけないように奨学金で買える学校で必要なものは、奨学金のお金で買いました。

4. 後輩へのメッセージ

私たちは普通の日本の学生とは立場がちがうことは、確かです。日本語はまだ難しいかもしれませんが。なかなか日本の生活にはなれないかもしれないです。だけど、この大変なことがいっぱいの中ではポジティブなこともあります。もしかして、私みたいにバイリンガルだから二つの言語をしゃべれて二つの文化を知ることができます。こういうことは、私たちにしかないものです。二つの世界を味わうこと、楽しむこと。この大変なことも私たちを強くしてくれますので、最後までがんばりましょう！

編集後記

先日、大学受験や進学費用に関することを、色々調べる機会がありました。日本は様々な貸付制度や奨学金制度があり、大学に関しては費用がほとんどなくても進学可能です。しかし、このたくさんある制度が非常に複雑で、この奨学金を申し込んでいたら、別のつなぎ融資を受けられる、などなど、保護者が日本語に堪能でない場合や不在の場合など、受験生本人が受験勉強をしながら調べないといけないケースの大変さを感じました。日本語がわかっても、わかりにくい募集要項、どうにかならないものなのでしょうか。。

また奨学金を将来返済することも念頭に置きながら借りる、という計画性も必要で、大学生となった奨学生にも「限度額いっぱい借りたらあかんで、必要な分だけ借りや」という話をしました。

4月に大学などに進学した奨学生たちはみな学校生活が楽しいと明るい顔を見せてくれました。4年後にはどのような道を選択しているかがまた楽しみです！(Y)

今年度も引き続き、募金箱設置にご協力いただきありがとうございます！

(順不同、2015年5月8日現在)

百済、(財)神戸国際協力交流センター、神戸映画資料館、ほっとすてーしょん、おかしの家、神戸市教職員組合、甲南女子大学多文化コミュニケーション学科、タンカフェ、神戸YWCA、ベトナム料理メコン、南インドカフェダイニング チャルテチャルテ、ブラジリアーノ、焼き肉みなみ、部落解放同盟兵庫県連合会

今後もし引き続き、募金箱設置をお願いいただける団体・店舗を募集しております！

皆様のご協力を宜しくお願いいたします。

～今後の予定～

- 2015年5月17日(日) 神戸まつり出展
(於:東遊園地公園、11:00～16:00)
- 2015年6月7日(日) 灘チャレンジ出展
(於:都賀川公園、11:00～16:00)
- 2015年7月17日(金) 丸五ナイト屋台出展
(於:丸五市場、18:00～22:00)
- 2015年8月 奨学生交流会(日程未定)
- 2015年10月31日(土) 第7回KOBEカンタービレコンサート
(於:ピフレホール、今回はジャズの予定です)

奨学資金の寄付を受付中です

ご寄付いただける方は、以下のゆうちょ銀行の口座までお願いいたします。

口座名義：定住外国人子ども奨学金実行委員会

口座番号：

(ゆうちょからの振込の場合) 14370 87454771

(他行からの振込の場合) 店番 四三八 普通預金 8745477

問い合わせ先 定住外国人子ども奨学金実行委員会

〒653-0038 神戸市長田区若松町4-4-10 アスタクエスタ北棟502

NPO法人 神戸定住外国人支援センター(KFC) 気付

TEL078-612-2402 FAX078-612-3052

E-mail kfc.scholarship@gmail.com Web <http://www.social-b.net/kfc/scholarship/>

